



# つどえ～る！

## 特集 ユニバーサルデザインによる「まちづくり」



浜松で運行している  
ノンステップバス

### CONTENTS

ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくり	2
つどえエクスプレスのユニバーサルデザイン	3
<市町村探訪> ワークショップによるまちづくり ～ 久にやさしいまちづくり研究会 (大洗町)	4- 5
<まちづくり団体の取り組み> 誰もが自由に移動できる街に ～ 自立生活センター・ライフサポート 水戸	6- 7
ヨーロッパにみるまちづくり	8- 9
<情報スクラップ>	10
<お知らせコーナー>	16

少子高齢化や国際化、価値観の多様化が進んでいく現代、高齢者や障害のある人、男女など様々な特性や差異を超えて、すべての人が暮らしやすい活動しやすい社会の実現が求められています。

今回は、そうした社会をつくっていくためのキーワードである「ユニバーサルデザイン」、「バリアフリー」に焦点をあてたまちづくりを考えていきます。

Vol 5

平成14年5月31日



# 特集 ユニバーサルデザインを取り入れたまちづくり

## はじめに

社会の成熟化とともに少子・高齢化の急速な進行、海外交流の活発化や、人々の価値観の多様化など、社会全体のニーズは複雑・多岐にわたっていますが、心の豊かさとともに、潤いと活力あふれる生活を求めるという願いは、誰もが共通して持っているものです。

年齢や性別、身体的な特性、言語など、人は皆、様々な個性を持っています。互いの違いを認識し、個性を認め合うことの大切さはだれもが感じていますが、人々の意識や社会環境はまだ多くの課題を抱えており、一人ひとりが互いに尊重され、思いやりのある社会を築かなければなりません。

## まちづくりの取り組み

その生活基盤としてのまちづくりにおいても、高齢者や障害のある人が一般の人と同じように外出できる、また、安心して都市の生活ができるように整備する必要があります。

しかし、現状をみると「まちに出掛けたとき、高齢者や障害のある人をあまり見かけないから、配慮は必要ない。」あるいは「まちがそうした人にとって楽しいところ、使いやすいところではないから外に出てこない。そうすると、その存在に気付くこともなく対応も考えない。」ことになり、ある種の悪循環が働いています。

これからの日本は、4人に1人が65歳以上になると予想され、高齢者が多くなれば、いろいろな意味で障害のある人も増えるため、まちに対する要望やニーズをきちんと把握しなければなりません。ものづくりにおいても様々な存在に気付くことや、ニーズの掘り起こしや把握といった原点から出直しが必要であるとともに、住民一人ひとりも要望を出していかないと物事が始まらないと思います。

そこで重要なことは、ものがつくられるプロセスのなかに多くの人に関わることです。どのように考えてつくっていくのか、また、そこを使う人はどういう要望を持っているのかなど、議論する機会を増やすことです。時間はかかりますが、丁寧なものづくりを進めていく必要があります。

また、絶対にやってはいけないことは、特別なデザインで言い訳してしまうこと、大掛かりな装置をつけて特別な対応をすることです。誰もが使えるような当たり前のデザインを考え、決して「何々向けの対策」のようにならないユニバーサルデザインを取り入れることです。

## おわりに

平成6年のハートビル法、平成12年の交通バリアフリー法の施行により建物や公共交通機関などにおける高齢者や障害のある人への配慮が制度化されるなど、時代は大きく変わりつつあります。ユニバーサルデザインは、法制度によるハードの整備だけでなく、サービス、制度、情報さらに人の意識など、あらゆる分野に関わりを持っています。行政だけでなく、事業者、団体、住民がそれぞれの役割の中でユニバーサルデザインを推進していくことによって、高齢者や障害のある人などが自由に活動し、いきいきと生活できる社会が実現します。様々な利便性、快適性によって地域の付加価値を高め、誰もが快適に暮らせる魅力あふれたまちづくりを進めていきたいと考えています。

### (用語説明)

バリアフリー：バリア(障害)の存在を前提とし、それを軽減しようとするもので、障害者差別を温存・助長しかねない面もあります。

ユニバーサルデザイン：最初からバリアが取り除かれることを目指し、誰もが使える当たり前のデザイン。

(茨城県土木部都市局都市計画課

企画調整G 光田 029-301-4583)



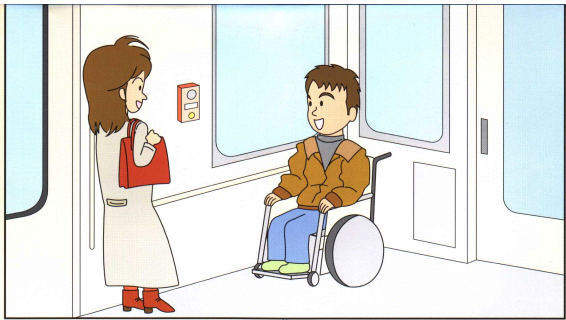
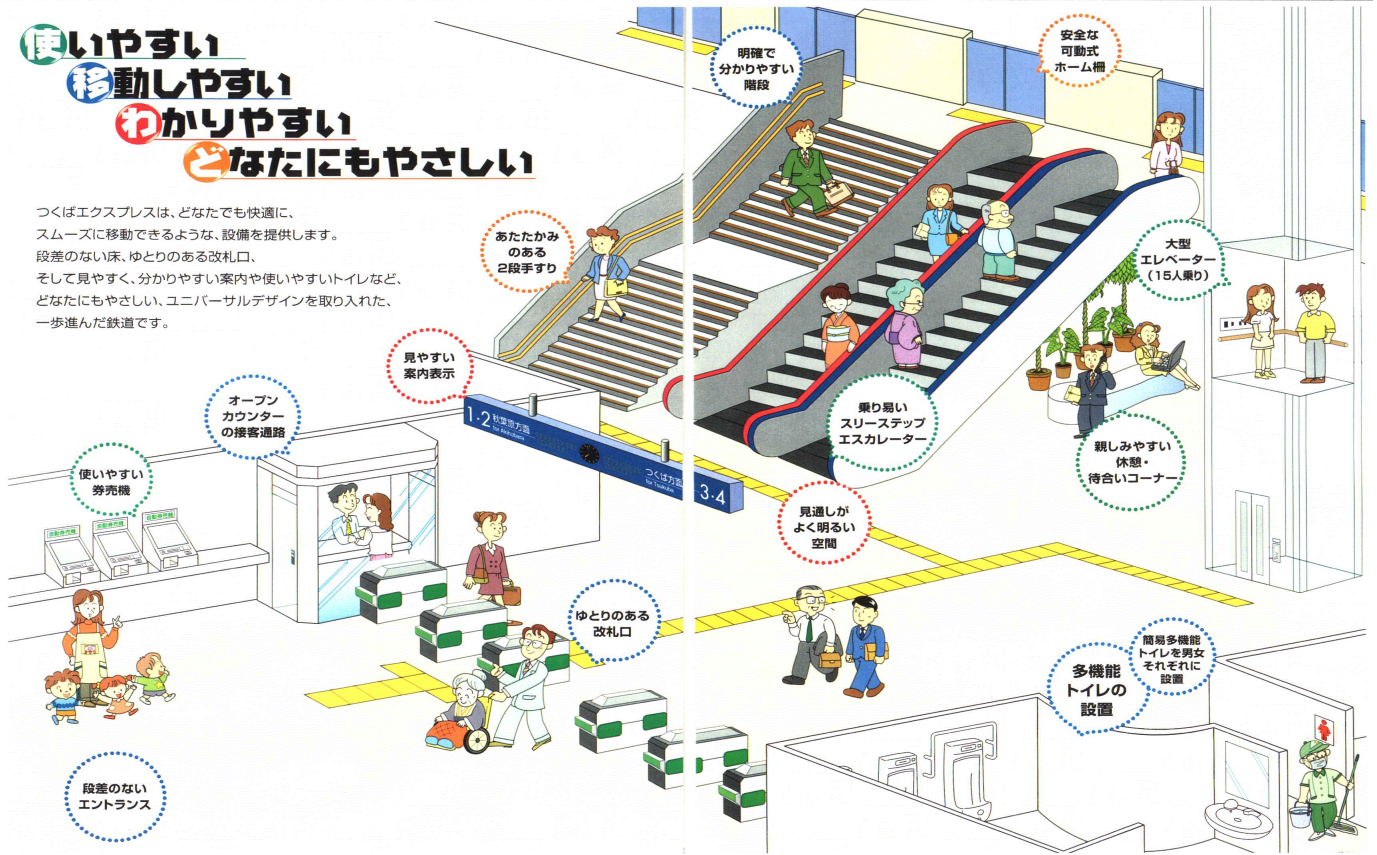




### つくばエクスプレスのユニバーサルデザイン

**使いやすい**  
**移動しやすい**  
**わかりやすい**  
**どなたにもやさしい**

つくばエクスプレスは、どなたでも快適に、スムーズに移動できるような、設備を提供します。段差のない床、ゆとりのある改札口、そして見やすく、分かりやすい案内や使いやすいトイレなど、どなたにもやさしい、ユニバーサルデザインを取り入れた、一歩進んだ鉄道です。



### 車いすスペース

車いす使用のお客様が安心して乗車できる車いすスペース及び異常時に乗務員(又は運輸指令所)に連絡できる対話式の非常通報装置。



### 車内案内表示器

車両の種別・行き先・次停車駅名・ドア開閉方向等の表示及びドアの開閉に連動するチャイムを鳴動する車内案内表示器。

### つくばエクスプレスのユニバーサルデザイン

つくばエクスプレスは、秋葉原～つくば間58.3kmを約45分間で結ぶ新しい都市高速鉄道です。

現在、平成17年度の開業を目指して、1都3県で鉄道の建設と沿線の新しい街づくりが進められています。

このつくばエクスプレスにおいても、駅舎や車両において、ユニバーサルデザインが積極的に取り入れられています。

例えば、駅の設備においては、段差のない床、車椅子でも通れるゆとりある改札口、誰にでも分かりやすい案内板、安全で安心感のある可動式ホーム柵等を整備する予定です。

また、車両においては、車椅子使用者が乗車しやすい乗降口や車椅子スペース、車内案内表示器などを整備する予定です。

誰もが安心して快適に使える鉄道の開業を目指し工事が着々と進んでいます。

(問い合わせ先：茨城県企画部新線・つくば調整課  
 029-301-2686  
 首都圏新都市鉄道株式会社  
 03-5827-3337)